

科目 1 グローバルビジネス戦略概論

シラバス

1. 狙い

グローバルな産業構造や競争環境、競争ルールが大きく変化している中で、グローバルに産業形成を主導していく事業戦略が求められており、そのために知的財産や標準化の新たな戦略的活用が求められています。

本研修プログラムでは、それらの事業や知的財産における新しい潮流を様々な視点・ケースを通じて学びながら、グローバルかつ戦略的な思考法を身につけることを狙いとしています。

科目1「グローバルビジネス戦略概論」は、その入り口として受講する必須的な位置づけにある科目です。そこで、事業と知的財産の関連について、基礎的な考え方や現在起きている変化・新しい動きなどを、様々な視点・パターンから幅広く伝えることで、グローバルな事業展開に知的財産や標準を活用するための基本的な考え方を身に付けてもらうことを狙いとしています。

2. 到達目標

本科目の受講後、受講生は自社の事業が置かれた内部・外部の事業環境を分析し、知的財産・標準化を活用した事業戦略を検討することができるようになっていることを目標とします。

3. 受講対象者

本研修プログラムでは、全体を通じて、知的財産部門だけでなく事業部門からも幅広く受講生を受け入れることで、前者には事業起点の知的財産活用の重要性を、後者には事業における知的財産活用の重要性を認識してもらい、関連する知識・スキル・発想力を身につけてもらうことを狙っています。本科目の受講対象者は以下の通りです。

- ・ 事業部門、知的財産部門、標準化部門のリーダークラス、管理職候補者
- ・ グローバルな事業戦略、知財戦略の企画担当者

4. 他の科目との関係

本科目に続く他の応用科目では、個々の事象やケースにより深く踏み込んで学びます。科目2～3および5はそれら応用科目の1つであり、本科目にはこれらの応用科目の導入として各科目の概要を伝えるコマを用意しています。

5. 全体構成

本科目は以下の4つのモジュールから構成されます。

モジュール 1. イントロダクション

本研修プログラムの全体像と目指すべき人材像や獲得するスキル、本科目の位置づけとコマ構成を理解した上で、企業経営における知的財産の重要性や役割が変化してきており、グローバルかつ戦略的思考・発想が求められていることに対して気づきを得る（危機感を抱く）。

モジュール 2. 事業戦略と知的財産の最新動向

事業における知的財産活用の最新潮流から、いくつかのトピックを取り上げて、各トピックの概要やパターンについて学ぶ。ここでは、各トピックについて理論を学ぶというよりは、新しい知的財産や標準化の活用として世界で起きていることを概観することで、自社ビジネスへの適用可能性などについて気づきを得ることに主眼を置く。

モジュール 3. グローバル事業展開と知的財産および関連法等

グローバルな事業展開におけるトピックとして、新興国への進出と知的財産の関係、競争法や経済連携協定等の制度とビジネスモデルとの関係について俯瞰する。新しい経済秩序の中で、これまでとは異なる新しい発想で、グローバル展開に取り組むことが求められていることに対して気づきを得る。

モジュール 4. 事業戦略と知的財産戦略

事業環境に応じた知的財産戦略の考え方について学ぶとともに、モジュール 1～3 を含めた全体総括として、ケース企業を対象として、企業が置かれた事業環境を踏まえた知的財産戦略の立案演習を行う。

6. コマ構成

モジュール 1. イントロダクション

No.	内容	事例
1	<p>ガイダンス～グローバル時代に求められる知財戦略、知財人材～</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本研修プログラムの受講終了時に目指すべき人材像(グローバル知財人材像)、身につけているスキル、企業・社会でどのように活躍をしてもらいたいかを理解する。 ● その背景として、グローバルな産業構造や競争環境、競争ルールの変化(過去の単純なビジネス環境との対比)の中で、産業形成を主導していくためには、グローバルかつ戦略的発想・思考から生まれる「知的財産や標準化の新しい戦略的活用」が求められていることを理解する。 	
2	<p>企業経営・事業戦略と知的財産</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ビジョン→全社的な経営戦略→事業別事業戦略→機能戦略(マーケティング・ブランド/研究開発/知的財産/財務/人事など)の構造から、事業戦略を実現するための知的財産という位置づけについて理解する。 ● その一例として、知的財産部門と他部門との連携について調査した結果を用いて、知的財産部門の役割や、他部門との連携が企業経営においてどのような役割を担うのか、何が求められるのかを理解する。さらに、事業戦略、研究開発戦略、知的財産戦略の連携(三位一体)や、連携をより強化する必要性を学ぶ。 	
3	<p>知的財産の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 知的財産の種類(特許、ノウハウ、商標など)、知的創造サイクル(創造、保護、活用)等の解説を通じて、知的財産が果たす基本的な(クラシカルな)役割について理解する。 ● 空調機分野を例に特許ポートフォリオと消費者ニーズの関係を調査した結果から、社会、顧客、最終消費者ニーズを意識した知的財産戦略が重要であることを理解する。 	<p>ダイキン パナソニック</p>

モジュール 2. 事業戦略と知的財産の最新動向

No.	内容	事例
4	<p>標準化の活用とオープン&クローズ戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新しい知的財産の活用方法の1つとして、標準化戦略・オープン&クローズ戦略（市場の形成・拡大とシェア拡大・独占）と知的財産の関係やそのパターンについて、事例を通じて理解する。 ● 知的財産マネジメントと標準化を戦略的に組み合わせたビジネス展開（市場拡大と差別化など）や、様々な分野（基幹部品や完成品・ソリューションなど）で採用されるオープン&クローズ戦略が、進化・多様化していることを概観する。 	Intel など
5	<p>テクノロジーソーシング・M&A戦略</p> <p><u>（科目2の概要）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新しい知的財産の活用方法の1つとして、テクノロジーソーシング・M&A戦略（技術の獲得）と知的財産の関係について、事例を通じて理解する。 ● 科目2への接続として、自前主義からの脱却の必要性（ビジネスにおけるスピードの重要性）を概観する。 	
6	<p>戦略的アライアンスとライセンス</p> <p><u>（科目3の概要）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新しい知的財産の活用方法の1つとして、アライアンス戦略と知的財産、とりわけライセンスの活用との関係について、事例を通じて理解する。 ● 科目3への接続として、現在のビジネス環境におけるアライアンスの重要性の高まりや、環境変化を背景としたアライアンスパターンの進化・多様化が起きていることを概観する。 	<p>Google</p> <p>自動車業界の特許開放 コーエン・ボイヤー特許</p>

モジュール 3. グローバル事業展開と知財および関連法等

No.	内容	事例
7	知的財産権を巡る国際的な議論とグローバルビジネス <ul style="list-style-type: none"> ● グローバルにビジネスモデルを実現していくための知的財産法、競争法、経済連携協定等の法制度活用の考え方について学ぶ。 ● 企業が戦略オプションを選択する際、各種法制度が影響を与える一要素となることを理解する。 	
8	グローバルビジネス展開と紛争 <ul style="list-style-type: none"> ● 実際の係争・ケースをもとにしたビジネスモデル実現にあたっての法制度上のリスク・チャンスを認識する。 ● 企業間の係争リスク、進出先国において権利形成が阻害されるリスク（経済連携協定の活用）、競争法上のリスク等について事例をもとに解説する。 	Philip Morris Ililly Apple vs Samsung Qualcomm
9	新興国進出 <ul style="list-style-type: none"> ● 内需縮小等を背景として、企業が成長する手段の1つとして新興国への進出が進んでいる中で、知的財産や標準化の重要性が増していることを理解する。 ● 新興国への進出パターン（マーケットとしての進出/生産機能としての進出/研究開発機能としての進出など）や進出先パターン（中国/ASEAN/その他など）によって、知的財産や標準化が関連する課題（営業秘密の保護、新興国企業への技術移転、エンフォースメント等）としてどのようなものがあるかを理解する。 	
10	戦略的グローバル展開 <ul style="list-style-type: none"> ● コマ 7~9 を受けて、これからのグローバルなビジネス展開のあり方について理解する。 ● 今後、グローバルにビジネス展開をしていくにはフロントランナー型への移行が重要であるとの視点から、基本特許と改良特許の概念について理解し、フロントランナー型への移行に対して何が求められるかを議論する。 ● また、グローバルビジネス展開の一例としてインドへの進出を想定した場合の問題点について議論する。 	インドでの営業秘密保護

モジュール 4. 事業戦略と知的財産戦略

No.	内容	事例
11	<p>グローバルビジネスのための知的財産戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1～10 コマを受けて、これまでの実務的な知的財産活動に加えて、戦略的な知的財産活動が必要になっていることを理解する。 ● 経営戦略のファンダメンタルを学びながら、事業環境（内部・外部環境）に応じた知的財産戦略の立案プロセスを理解する。 ● また、事業環境によって採るべき知的財産戦略も異なることから、事業ごとに知的財産戦略を立案・推進するべきであることを理解する。 	
12	<p>演習 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ケース企業の事業環境について整理 (SWOT) し、ディスカッションを通じて SWOT から導かれる知的財産戦略を検討する。 	<p>Campbell Soup Company</p>
13	<p>事業戦略に応じた知的財産戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 11 を受けて、事業の特性に応じた知的財産戦略について、事例を通じて理解する。ここでは、「事業における技術の重要性」と「1 個の特許の重要性」を軸に、事業を分類し、それぞれの事業に特有の知的財産戦略について考える。 	<p>明治 東レ など</p>
14	<p>演習 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事業環境に鑑みケース企業の事業戦略および知的財産戦略を検討し、ディスカッションを通じてブラッシュアップする。 	GoPro
15	<p>事業ポートフォリオの転換と知的財産マネジメント</p> <p><u>(科目 5 の概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新興国企業の台頭等によるシェア低下や内需縮小等を背景として、企業が成長する手段の 1 つとして、事業の多角化や主要事業領域のシフトといった事業ポートフォリオ転換が進んでいることを理解する。 ● 科目 5 への接続として、事業ポートフォリオを転換する過程で、知財機能として影響を受ける事象（知的財産戦略のシフト、人事・組織マネジメントなど）について、その概要を理解する。 	